

社会福祉法人年輪 令和 6 年度 事業報告書

1. 法人
2. 令和 6 年度総括
3. 本部事業報告
4. 施設報告

1. 法人

(1) 概略

法人名 社会福祉法人年輪（ねんりん）
所在地 東京都青梅市成木三丁目 315 番地の 7
理事長 西河 洋一
設立認可年月日 平成 29 年 1 月 31 日
法人登記年月日 平成 29 年 2 月 2 日

(2) 社会福祉事業-拠点区分-サービス区分

いいあさファーム（拠点区分）

- ・本部（サービス区分）
- ・就労継続 B 型サービス（サービス区分）
- ・生活介護サービス（サービス区分）

2. 法人事業計画重点目標進捗結果

(1) 感染症に関する対応

前年度は感染症による脅威も落ち着いた事もあるが、感染症が蔓延することはなかった為、BCP 対策は一定の成果があったと考えている。

しかし、感染症は完全には消失してはおらず、地震や水害等の被害リスクも現存している為、今年度も引き続き BCP 対策はおこなう。

(2) 人材育成

今年度に新たな事業、相談支援事業を発足する事で、現係長が当事業所の管理者として異動する為、前年度は主任以下の職員の役割を大幅に改変した。

その結果、施設内の連携が予定通りにいかず、育成を計画通りに進めることが出来なかった。

(3) 利用者支援

前年度は利用者の事をより深く把握する為に、いいあさファーム主体で家族会を開催し利用者の情報交換を行った。そして家族との交流を深めるべく、共にジャガイモの収穫祭を行った。

結果、いいあさファームの方針、そして想いをご家族と共有する事が出来た。

3. 本部事業報告

(1) 評議員会

6月24日	第1号議案	「令和5年度事業報告書の承認の件」
	第2号議案	「令和5年度計算書類及び財産目録の承認の件」
	第3号議案	「非常勤役員等報酬規程改定の件」
	第4号議案	「事業計画及び事業予定地購入の件」
3月31日	第1号議案	「令和6年度最終補正予算案承認の件」
	第2号議案	「令和7年度事業計画及び収支予算案承認の件」

(2) 理事会

6月8日	第1号議案	「令和5年度事業報告書の承認の件」
	第2号議案	「令和5年度計算書類及び財産目録の承認の件」
	第3号議案	「定時評議員会招集決議の件」
	第4号議案	「役員等賠償保険加入の件」
	第5号議案	「非常勤役員等報酬規程改定の件」
	第6号議案	「経理規程改定の件」
6月21日	第1号議案	「事業計画及び事業予定地購入の件」
	第2号議案	「業務執行報告」
7月22日	第1号議案	「事業所拡張予定地購入の件」
3月17日	第1号議案	「令和6年度最終補正予算案承認の件」
	第2号議案	「令和7年度事業計画及び収支予算案承認の件」
	第3号議案	「評議員会招集の件」
3月27日	第1号議案	「業務執行報告」

(3) 助成金・補助金等

① 補助金事業収入（公費）

- ・青梅市日中活動系サービス推進事業補助金
- ・令和6年度東京都障害福祉サービス等職員居住支援特別手当事業補助金
- ・令和5年度障害者施設等物価高騰対策支援金（後期）

② 補助金事業収入（一般）

令和5年度現任障害福祉サービス等職員資格取得支援事業における補助金/公益財団法人東京都福祉保険財団	50,000 円
---	----------

③ 国庫補助金収入

該当なし	
------	--

④ 寄附金収入

- ・現金による寄附 該当なし
- ・物品による寄附 該当なし

施設報告

令和6年度 事業報告書

1 いいあさファーム

令和6年度は季節の行事や家族会などを開催し、ご利用者の活動が充実してきました。

(1) 重点目標

計画	①感染症対策を講じながら、利用者がのびのびと活動できる場面を作る。	実施	感染症対策は継続しつつ、外活動を中心にプログラムを組み立てた。
		効果	活動プログラムがわかりやすいかたちになり、利用者一人ひとりが積極的に活動に取り組めた。
	②利用者のより良い生活を考え、充実した一日を過ごすための計画の作成を行う。	実施	支援計画の書式を整え、利用者の方の思いを反映した。
		効果	グループ活動の活動内容を明確化し、利用者の方が目的を持ってプログラムに取り組む事ができた。
	③職員の確保と育成を強化する。	実施	常勤職員、非常勤職員ともに採用をすすめ支援体制の強化を図った。
		効果	月に1度の研修会と職員会議を実施し、職員育成と連携の強化が見られた。 また、1月から常勤職員が長期の療養となり、職員体制の見直しを図った。

2 就労継続支援B型事業所

(1) 重点項目における取り組み

計画	①ご利用者が納品や販売に携わる機会を作る。	実施	地域のバザーや販売会を活用し、利用者の方が直接販売をする機会を作った。
		効果	近隣の農家さん協力のもと生産したものを仕入れ、いいあさファームでパッケージ販売し、地域との関係性の構築へと繋がった。 生産物の販売実績をもとに、利用者の方に賞与の支給ができ、はたらく意欲につながった。

	②作業行程の分析を行い、利用者が取り組める作業を抽出する。	実施	生産物それぞれの行程を細分化し、取り組める場面を創出した。
		効果	堆肥を作成する箇所を設定し、作業の始まりと終わりを明確にした。
	③乾燥野菜の作業グループを構築。	実施	作業の準備性、取り組みの姿勢を考慮したグループを新たに設定した。
		効果	乾燥野菜の販売に向けて、試作品に取り組み納品先との連携を図ったが、売上に至るまでは、結びつかなかった。
	④事業所運営を安定化し、報酬改定など様々な要因で変化する福祉の情勢に対応する。	実施	令和6年度に新たに利用者2名を受け入れ、経営の安定化を図った。
		効果	平均利用者数が向上し、運営の安定化に繋がった。

3 生活介護事業

(1) 重点項目における取り組み

計画	①思いを汲み取る支援を行う。	実施	個別支援計画の様式を見直し、改めて利用者の方ができることを中心に目標を設定した。
		効果	面談を通して本人の意思を汲み取り、計画に反映し、支援の共有を行った。
	②重度の利用者が作業で活躍できる場面を創出し、畑の取り組みにつなげる。	実施	個別の対応を行い、畑の作業に携わる機会を作った。
		効果	利用者の方の特性を活かし、耕作地の一角に堆肥作成の作業場を作り、作業をわかりやすくした。
	③利用者の特性に合わせたグループ編成を行う。	実施	職員体制を整えることが出来ず、令和5年度同様のグループにて取り組んだ。
		効果	プログラムの充実を優先するため、個別の対応を進めていくことで、利用者の方のできることの幅が広がり、ご家庭での掃除などに繋がった。

	④統一された共有の支援方法へ取り組む。	実 施	日々の取り組みと、これからの目標へとつなげていく計画にし、プログラムを実践した。
		効 果	個別支援計画書を見直し、統一された支援が展開できるように共有を行った。

4 研修会の取り組み

(1) 職員全体研修会

1 1月に職員全体研修会を実施し、羽村特別支援学校と社会福祉法人コロロ学舎五ノ神学園の見学を行いました。

- ・未経験の入職職員を中心に、特別支援学校の授業を含めた、地域での取り組みを案内いただいた。
- ・コロロ学舎では、主任などの職員が見学させていただき、障害特性に特化した支援方針のもと集団活動の取り組み方などを案内いただいた。

(2) 職員内部研修会

①新入職員研修の実施

就業規則、職員行動規範、障害者施策、権利擁護・虐待防止など

②毎月の職員会議時の研修

権利擁護・虐待防止、障害者施策、障害特性など

(3) 職員外部研修

①虐待防止研修会参加

7月、10月 東京都福祉保健局

12月 青梅市障がい者福祉課

②強度行動障害研修参加

7月、12月 東京都福祉保健局

③東京都社会福祉協議会

9月、12月 研修会

④東京都障害者通所活動施設職員研修会

5月、11月 研修会

など

(4) 事業所支援方針の共有

毎月の職員会議の際に、日々の支援の振り返りと支援方針の共有を行った。

5 地域交流

(1) 農福連携を西多摩地域及び、青梅市で推進していくにあたり、近隣の農家さんや農協、農業振興会などの関係機関との関わりを深めてきた。

①青梅市成木農業振興会との交流

・青梅市からのワイン用のぶどうの委託生産を農業 振興会で取り組まれており、交流や生産実習を兼ねて収穫や摘花、草取り作業に参加した。

②成木地区文化祭の参加

・室内作業で制作した作品の展示を行い地域の中でのいいあさファームを伝える機会として、活用した。作品は、審査員による賞を受賞し、ステージでの合唱による参加も2年ぶりに取り組み、練習の成果を発揮する場となり、参加された利用者の方の自信へと繋がった。

6、関係機関との連携

(1) 実習生受け入れ

①羽村特別支援学校からの受け入れ 計6名

高校2年生 4名 高校3年生 2名

②近隣グループホームからの受け入れ 計2名

青梅市地域は東京都内におけるGHのユニット数が最多の70ユニットあり、まだ増えている状況。

7、職員動向

(1) 令和6年3月31日

常勤 8人：うち有期契約職員 2人

非常勤 24人：生活支援員 8人 作業支援員 5人 職業指導員 2人
看護師 1人 嘱託医 1人 事務職員 1人
嘱託営繕 2人 運転手 2人 調理員 2人

(2) 人員配置

①就労継続支援B型事業 6：1

いいあさファーム 2.9人配置 (基準上の必要職員数 2.17人)

②生活介護事業 1.5：1

いいあさファーム 10.4人配置 (基準上の必要職員数 9.73人)

(3) 入職、退職

常勤 入職者 1名 退職者 なし

非常勤 入職者 6名 退職者 4名

以上